

ジョイサポコラム No.15

秋 — 静かに振り返る

横須賀共済病院 小児科 佐藤 美保



医師になって28年がたつが、さまざまな巡り合わせ、ご縁に導かれ、横須賀の地で勤務医として働いている。

この28年間、今振り返っても、とにかくがむしゃらに日々を過ごしていたと思う。仕事も頑張り、子育てにも必死になって取り組んだ。非常に幸運なことに、実家の協力が得られ、理解ある上司や同僚にも恵まれた私は、周囲の人々におんぶに抱っこで、時には休んだり仕事のペースを落としたりしながら仕事を続けてきた。時間的、物理的、心理的にハードな28年間だったが、「働き続けたい」という本能に近いものが原動力となっていた。周囲の支えがあったからこそやってこられたのは言うまでもないが、それにしても、「あんなに頑張らなくても良かったのに…」と自分でも思うくらい頑張っていた(笑)。もともと体育会系の気質で、ひたすら突き進んでいた感がある。

専門は新生児領域であるが、新生児科医になったきっかけは、研修医時代に初めて立ち合ったお産である。赤ちゃん誕生の瞬間を見て感動・感激し、初めは産婦人科を考えたが、産婦人科医になるならと思って研修したNICUで新生児医療の魅力にとりつかれ、最終的に新生児科医の道に進んだ。NICUで働くのは楽しかった。ただ、NICUは、その特性として赤ちゃん中心ですべてが動く職場であり、自分の出産後はいったん離れざるを得なかった。

NICUには当面の間戻れないだろうと半ば諦めていたが、時代の流れとともに、周囲でも子育てしながら働く医師が少しずつ増えていった。医師10年目くらいの頃、理解ある上司に声をかけてもらい、「9-17時勤務」「当直は月2回で可」「子の急病時は休んでよし」という何とも有難い条件で、予想していたよりずっと早く復帰することができた。NICUはチーム医療なので、その中に混ぜてもらって、自分にやれる範囲のことを全力でやるように努めた。とは言え、夕方入院があっても17時以降は参戦できず、後ろ髪を引かれる思いで、また周囲の人々に申し訳ないという思いで職場を出たものだ。

それから7年間、大学病院NICUでの仕事を満喫し、2015年、医局人事で今の職場に配属された。現在小児科医総勢8名体制で、私以外は若い人たちがばかりだが、頼りがいのある若者がそろっている。皆で切磋琢磨しながら、協力して働くのは楽しい。勤務にもさまざまな形態があるが、仲間と力を合わせて働く、これこそ病院勤務の醍醐味だと思う。今こうして働けることに感謝しながら、また、これまで自分が支えてもらった分を恩返しするつもりで、今度は自分が若い先生たちを支えていきたい。

さて家の方であるが、末っ子が中学3年生と